

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19402038

研究課題名（和文）都市ガバナンスの日米比較研究

——「景観の公共性」に関する社会学的実証研究

研究課題名（英文）Governance of the City and the “publicness” of Landscape:

A Sociological Comparison between the U.S. and Japan

研究代表者

堀川 三郎（HORIKAWA SABURO）

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：00272287

研究代表者の専門分野：社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：歴史的環境，保存運動，都市計画，町並み，小樽，アメリカ，環境社会学

### 1. 研究計画の概要

「都市空間の変化は、誰に、どのような影響を与えるのか。そして、その変化はどのような社会的過程を経てコントロールされるのか」——これが、本研究を主導する最も基本的な問いである。

この問いを、日本とアメリカ合衆国を事例に比較すると、双方ともに都市計画と保存法制が整備されており、表面的には相違は見られない。しかし、最終的な保存の担保の「仕方」と「成果」——どのような枠組みや形式・領域で保存するのか、どの程度保存されているか——について見れば、この2国の発想と結果は対照的であるように思われる。それはなぜかを探ることが最終目的である。

### 2. 研究の進捗状況

日米比較というテーマ設定上、下記のふたつの調査を並行的に進めてきている：

#### （1）日本国内事例の調査

北海道小樽市の保存運動と観光開発の事例を軸に、若干の他事例を文書資料などで補って調査・分析を進めた。特に、1998年度から継続して実施している定点景観観測調査は、順調にデータを蓄積してきている。観光開発が既存の歴史的建造物を大幅に改変してしまう開発圧力として作用し、「歴史の町・小樽」というイメージとは裏腹に、歴史的町並み自体が徐々に減少してきていることが見出された。歴史を「売り」とする町が歴史を喪失している——なぜ、このようなパラドキシカルな過程が進行するのか、現地調査を重ねつつ、予備的考察を行ってきた。

#### （2）アメリカでの保存事例の調査

アメリカでの事例調査研究は、年度ごとに調査対象の力点を移しながら進めているが、現在までにヴァージニア、ジョージア、サウス・カロライナ、ニューヨーク、マサチューセッツ、ミズーリの各州およびワシントン特別区で調査を行ってきた。

現在までに調査したヴァージニア州モンティチェロやモンペンリエなどでは、アメリカの歴代大統領のプランテーションが丁寧に保存されているが、その保存の論理は極めて「愛国的」「ナショナリスティック」なものであることが見出された。合衆国の輝かしい歴史の一コマであるからこそ残さねばならぬという保存の論理は、しかし、ニューヨークでの調査結果が指し示すような「保存を通じて」既存コミュニティの特性の維持・再生産を図ろうとする動向とはまったく異質なものであることは明らかであろう。この「愛国的保存」と「コミュニティ保存」のギャップをどのように理解すべきか、そして「愛国的」保存運動はいつ、いかに「コミュニティ形成運動」へと転化してきたのか。事例の示す理論的課題は重要である。

以上を踏まえ、すでにいくつかの予備的考察を公刊してきているというのが、現在の進捗状況である。

### 3. 現在までの達成度

#### ③ やや遅れている

（理由）いくつかの保存運動に関わる歴史的証言は、著作権上の問題や所蔵図書館（例えばメリーランド州立大学ホーンベイク図書館「ナショナル・トラスト」コレクション）

の公開基準などの制約により、当初の計画通りに資料が閲覧・入手できなかったことによる。また、些細なことではあるが、州立大学という組織であるがゆえに、複写料の支払い方法が外国研究者のことを考慮しておらず、支払い手続きが極めて煩瑣かつ困難であったことも進捗阻害要因であったことを記しておきたい。

#### 4. 今後の研究の推進方策

引き続き、セントルイス市での現地調査を行い、また運動関係者の証言を記録していくことを続ける予定である。「愛国的な」保存運動の事例としてアメリカ南部（チャールストン、サヴァナ）での事例調査を積極的に進め、「コミュニティの特性保存」の好個の事例として、マサチューセッツ州およびニューヨーク州での調査も行う予定である。

メリーランド州立大学ホーンベイク図書館での証言記録の閲覧も継続しつつ、それを補完するために、ハーヴァード大学レーブ図書館、コロンビア大学エイブリー図書館、チャールストン歴史協会などの収蔵資料を探索する予定でいる。

#### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計2件）

（1）堀川三郎「場所と空間の社会学——都市空間の保存運動は何を意味するのか」日本社会学会『社会学評論』第60巻第4号，517-534頁，2010年，査読有。

（2）堀川三郎「都市を記憶するのは誰か——『歴史的環境保存の社会学』へ向けてのスケッチ」慶應義塾大学三田哲学会『哲学』第117集，177-218頁，2007年，査読有。

〔学会発表〕（計1件）

（1）堀川三郎「保存運動の経過と成果」（招待基調報告），日本建築学会北海道支部・日本都市計画学会北海道支部共催シンポジウム，2008年11月7日，北海道小樽市。

〔図書〕（計5件）

（1）堀川三郎「景観の保存と保全」，鳥越皓之・帯谷博明編『よくわかる環境社会学』（ミネルヴァ書房），130-132頁，2009年。

（2）堀川三郎・森久聡編『小樽運河保存問題関連年表：1959-2006』（法政大学社会学部科研費プロジェクト「公共圏と規範理論」資料集・年表6），法政大学社会学部（A4判，86pp.），2008年。

〔その他〕

（1）堀川三郎「基調報告『保存運動の経過と成果』」，小樽シンポジウム実行委員会編『小樽運河と石造倉庫群の保存運動から何を受け継ぐか：地域に生き，地域を守る……まちづくり運動の先駆者 峯山富美氏が伝えること シンポジウム開催報告』，9-30頁，日本建築学会北海道支部・日本都市計画学会北海道支部（A4判，76pp.），2009年。